

事業の概況

■ 経営環境等

我々系統組織を取り巻く環境は、少子高齢化による人口減少等の構造的な問題による事業基盤への影響に加え、日銀のマイナス金利政策の長期化および銀行勘定金利リスク（I R R B）規制等により、国内外の投資環境は極めて厳しい状況にあります。

更に、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、予測できない世界規模の危機に直面し、経済的・社会的活動の制限を受けて厳しい環境が続いております。

こうした情勢のもと、令和2年度は、中期経営計画（令和元年度～令和3年度）の中間年度として、基本戦略に掲げる「安定的収益還元機能の強化」、「J Aバンクえひめ本部機能の強化」の主要施策に取り組みました。

「安定的収益還元機能の強化」については、有価証券の計画的な投資に取り組むとともに、地場企業および農業関連法人などへの新規開拓による貸出残高維持に取り組みました。

「J Aバンクえひめ本部機能の強化」では、新型コロナウイルス等感染症対策として、J A金融店舗等への非接触検温器の導入や、影響を受けた農業者へのお見舞い給付金の支出などに取り組むとともに、「農業の夢・ヒアリング訪問」や販路拡大応援などによる農業の成長支援や、「取引ランクアップ運動」などの各種キャンペーンによる信用事業推進の変革にも取り組みました。

また、地域貢献活動としては、愛媛県と連携し、愛媛県が子どもや子育て世代の支援のために創設した「子どもの愛顔応援ファンド」に愛媛県産米と寄附金を寄贈し、11月には寄贈米を活用した子ども食堂への支援活動が始まりました。

以上のような取り組みの結果、経常利益、当期剰余金ともに計画を上回る実績を収めることができました。

■ 業績

令和3年3月末の県内 J A 貯金残高は、前年対比392億円増加し2兆585億円となりました。

J A 貸出金残高は、前年対比198億円増加し3,507億円となりました。

当会の資金調達では、令和3年3月末貯金残高は、前年対比243億円増加し1兆6,757億円となり、令和2年度期中平均残高は、前年対比142億円増加し1兆6,659億円となりました。

一方、資金運用では、預け金残高は、前年対比232億円減少し1兆351億円となり、期中平均残高は、前年対比16億円減少し1兆584億円となりました。

貸出金残高は、前年対比75億円増加し1,002億円となり、期中平均残高は、前年対比52億円増加し943億円となりました。

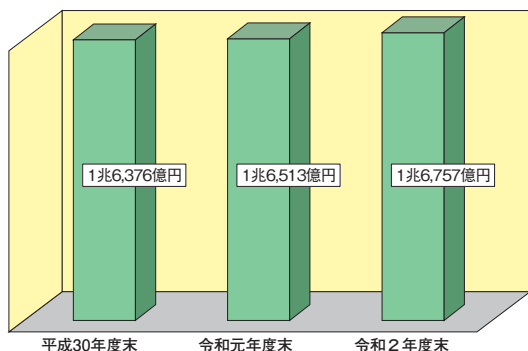
有価証券残高は、前年対比436億円増加し5,874億円となり、期中平均残高は、前年対比29億円減少し5,453億円となりました。

事業収支では、経常収益は166億8百万円、経常費用は128億1千6百万円となりました。この結果、経常利益は、前年対比3億9千9百万円減少し37億9千1百万円となりました。また、当期剰余金は、前年対比3億3百万円減少し33億8千8百万円となりました。

資金調達および資金供給の状況

信連の資金調達の状況

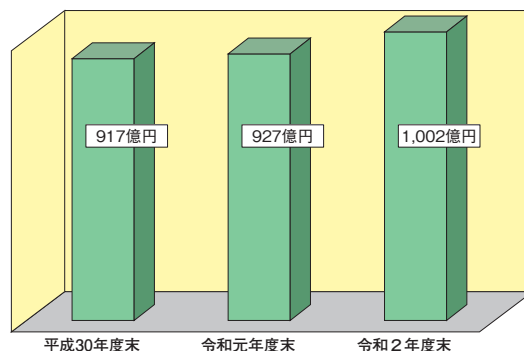
信連貯金等残高の推移



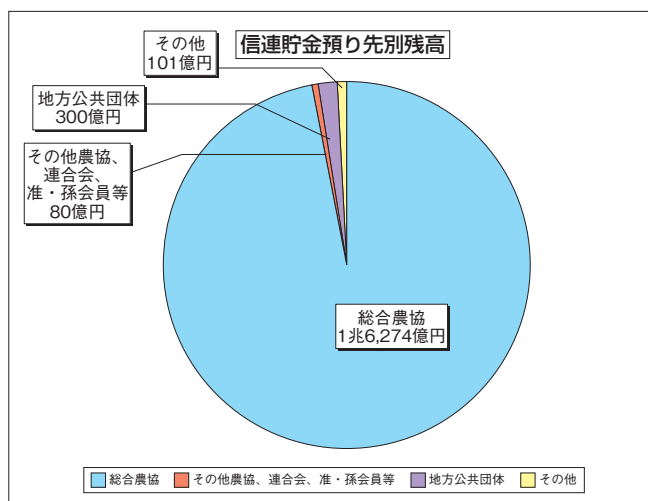
当会の貯金等の残高は、令和3年3月末現在 1兆6,757億円となり、前年対比243億円増加しました。

信連の貸出金の状況

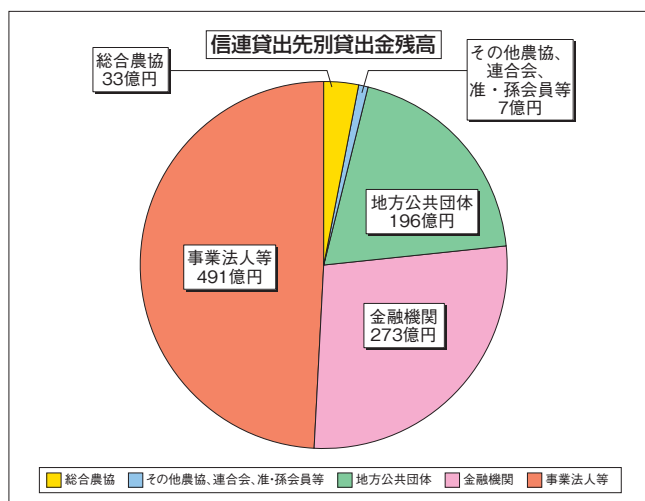
信連貸出金残高の推移



当会の貸出金の残高は、令和3年3月末現在 1,002億円となり、前年対比75億円増加しました。



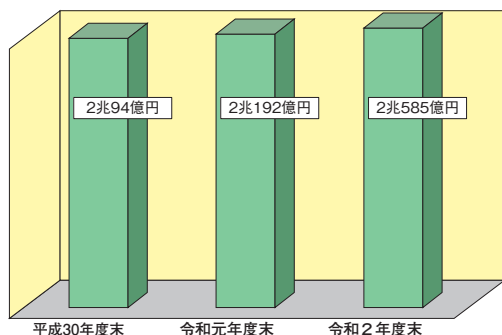
当会の資金調達は主として総合農協（JA）からの貯金によるものです。



県内JAおよび当会にお預りしている貯金等を原資として、地域の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えするためにご融資を行っています。

JAの資金調達の状況

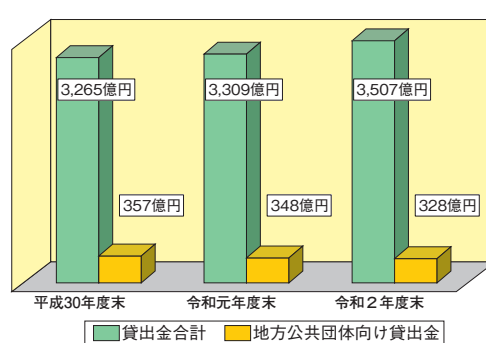
JAの貯金等残高の推移



JAが組合員をはじめ地域の皆さまからお預りしている貯金等の残高は、令和3年3月末現在 2兆585億円となり、前年対比392億円増加しました。

JAの貸出金の状況

JAの貸出金残高の推移



JAは、お預りしている貯金等を原資として、組合員・地域の皆さまのさまざまな資金ニーズにお応えするためにご融資を行っています。令和3年3月末現在の貸出金残高は3,507億円、うち地方公共団体向け貸出金は328億円です。